

【保護者向け参考資料】

一人1台タブレット端末をはじめとする情報技術の適切な利用に向けて（解説）

小学校用

1 一人1台タブレット端末をはじめとする情報技術のよき使い手として、コンピュータやネットワークを使って、毎日の生活や学びをよいものにしましょう。

現代の情報社会では、個人の資質や能力は情報技術と一体化している、という認識にあります。「情報技術のよき使い手となる」ことは、児童自身が将来のための職能を獲得し、生活や人生を充実させるために必要です。

また、生活と学びははっきり区別されるものではなく、むしろ、生活要素のすべてに学びがあると考えれば、生活のなかでコンピュータを賢く役立てることが、学びをいっそう豊かにすることにつながります。

2 一人1台タブレット端末をはじめとする情報技術のよさについて学び、①安全に ②責任をもって ③自分も相手(周りの人)も大切に使う使い方を身に付けましょう。

情報技術は鋭利な刃物と同じ特性を持ちます。正しい使い方をすれば、大きな力となって学習や生活に役立てることが出来ますが、誤った使い方をすれば、自分のみならず周囲や社会にも危害が及びます。①安全に ②責任をもって ③互いを尊重する、の3点は、繰り返し強調すべきポイントです。

3 学校で配付された自分のアカウントやタブレット端末は大切に扱しましょう。アカウント名やパスワードは、他の人に教えてはいけません。

学校で配付されたアカウントは、学校に関わる活動でコンピュータやネットワークを扱うときに、児童個人を識別する大切な

情報で、パスワードは個人の情報を守るための鍵の役割を果たします。発達の段階に応じてパスワード管理の指導は変わりますが、小学生高学年以上は自分自身で適切に管理することが期待されます。

児童のコンピュータは、本校在学中に限り学校側が貸与するものであり、期限が過ぎれば返却し、後輩の児童が引き続き使うこととなります。

自分の持ち物であることを分かりやすくするために、画面の壁紙を変更する程度のことはいかまいませんが、学校で使う道具であることを日常的に意識させる必要があります。

4 私たちが誤った使い方をしないように、学校で配付されたアカウントやタブレット端末を使ったコンピュータの活動は「いつ」「だれが」「何を」したか、全て先生が確かめられるようになっていることを理解しましょう。

児童は成長の過程にあるので、大人と同じ振る舞いを求めることが難しいときもあります。学校は児童を導き支える責任を負っているため、成長に応じてコンピュータ・ネットワーク活動範囲の提供や権限の付与を行い、違法・不適切な使用があればこれを是正指導する必要があります。

学校で配付されたアカウントやタブレット端末を使ったコンピュータの活動は、教育委員会ですべての履歴を記録しており、ふだんは個人特定しないレベルで大雑把な利用傾向を把握しますが、何か事案が起こった場合やトラブルが疑われる場合は、管理者として詳細な監査を行う用意があります。

教育的には、学校で配付されたアカウントやタブレット端末を使ったコンピュータの活動を明確に監査の対象と宣言することで、自身のデジタル上の足跡を意識し、正し

い使い方やメディア利用についてのバランスを考えるきっかけを与えます。

5 使い方の約束が守れないときは、コンピュータやネットワークを使うことを禁じられるかもしれないことを理解しましょう。

コンピュータやネットワークの不適切な使い方とは、違法行為・目的外利用・破壊・他者への恫喝など様々あります。

コンピュータやネットワークの活用は学校生活に不可欠です。不適切な使い方によって、利用を制限されたりアカウントが停止されたりすると、学習に必要な情報・連絡・資料も得られないばかりか、課題提出や応答もできないので、重大な支障が生じる可能性があります。

6 コンピュータの調子が悪いときや壊れたと思ったとき、または、何か心配なことや困ったことが起こったとき、自分で判断ができないときは、すぐに家の人や先生に話しましょう。

大切に扱っていても、時としてコンピュータの故障や破損は起こります。機器の不調や破損が起こったときは一人で抱え込まず、すみやかに保護者や教員に相談して適切な解決が得られるようにします。

7 一日の生活でコンピュータやさまざまなメディアを使う時間について考え、毎日を健康に過ごしましょう。

コンピュータやネットワークの活用を日常とする生活では、使い過ぎや依存の懸念も増えます。しかし、コンピュータを使っている様子だけでは、勉強なのか遊びなのか分かりませんし、メディアを全く使わない日やネットの利用時間を一律に決めて守らせようとしても、上手くいかないことがあります。

学校では、適切なメディア利用の balan

スを考え、振り返りをし、心身の健康を保つのは自分自身であると教え、①使ってはいけない時間を家族と約束する、②自分の置かれた状況でメディア利用の優先順位を決める、ことでメリハリをつけた使い方を推奨します。

★保護者の皆様へ

お子様の健全な育成のため、家庭においてもコンピュータの扱いやネットワーク活動について適切な監督と関与が求められることを御理解いただくようお願いいたします。何か心配なことがございましたら、すぐに学校へ御相談願います。

先に示した通り、児童自身が情報技術の特性を理解し、自律したよき使い手となるためには、成長の過程での周囲の関わりが不可欠です。学校はコンピュータやネットワーク活用のガイドラインを示し、適切な使い方の指導を行うとともに、その利用状況を保護者と共有します。

御家庭でも、保護者の立場として児童の情報技術利用の成長過程に関わり続ける必要があることについて御理解いただきますよう、お願いいたします。